

4. 学生の受け入れ

目標

1. 本学の教育理念・教育目標・教育目的及び医療保健学部各学科の教育目標に興味・関心を持った学生に対して、多様かつ複数の入学者選抜方法を実施し、有為な人材の受け入れを図る。
2. 多様な入学者選抜方法による受け入れ方針を明確にし、公正かつ適正な入学試験を行う。
3. 学生募集に係る広報活動を積極的に行い、入学定員の確保に努めるとともに、適正な定員管理を行う。

<学部における学生の受け入れ>

(1) 学生受け入れ方策

本学においては、建学の精神及び教育理念である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を図ることを目的としており、意欲と能力のある学生を受け入れるために、多様かつ複数の入学者選抜方法を実施している。

① 学生募集の組織

「現状及び点検・評価」

- 医療保健学部の入学者選抜試験については、入学試験実施委員会がその実施に当たっている。入学試験実施委員会は、大学経営会議により任命された専任教員6名・大学経営会議室長・事務局長・教務部長・入試広報部長計10名をもって構成し、入学試験実施委員長1名及び副委員長3名は大学経営会議により指名されている。
- 学生を募集するための広報活動については、入試広報部が担当しており、高校訪問・進学説明会・オープンキャンパスの企画・実施を行っている。また、入試広報部においては、戦略的な広報活動の企画・立案を行うとともに、学内のオープンキャンパス・見学会・進学説明会については、各学科教員との連携を図り、円滑かつ効果的な運営を行っている。

② 学生募集方法

「現状及び点検・評価」

- 学生募集活動については、前年度入試実績（受験者の所属校・受験者数・入学者数及びオープンキャンパス来場者数など）をもとに、オープンキャンパスの開催時期、進学説明会の実施方法、広報媒体などについて入試広報部で検討して原案を作成し、広報担当の専任教員を含めた協議組織、学科長会議及び大学経営会議の審議・承認を経て実施している。また、入試広報部の担当グループは、分担して各都県の高等学校・

塾等を訪問し、オープンキャンパスのお知らせや入試の選抜方法、学部・学科の教育内容等の説明などの情報提供を行い、本学のPRに努めている。

- ・ 高校訪問（1,045校実施）
各学科の紹介、入試説明、他。
- ・ 予備校・塾等訪問（67校実施）
各学科の紹介、入試説明、他。

○進学説明会の実施状況（平成20年度）は次のとおりである。

- ・ 進学説明会
高校教員を対象とした学内大学説明会（6月実施）、高校生を対象とした学内入試説明会（11～12月に2回実施）、高校に出向いて行う進学説明会（113回）、会場ガイダンス（44回）

表 37 学内入試説明会来場者数

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
開催回数	3回	3回	3回
来場者数	378名	430名	246名

- ・ 広告媒体
受験雑誌広告（40誌）、インターネット広告（8企画）、新聞媒体（3社）等。

○オープンキャンパスでは、大学の理念・教育方針を説明するとともに、各学科の体験授業や在学生による学生生活等の説明・案内などによって、本学の雰囲気を理解してもらうよう努めている。

- ・ オープンキャンパス（年3回実施）
学長・理事長講演、教職員による入試説明会、学科別相談会、学生支援センターによる寮・奨学金などの相談会、学科による模擬授業、学科による体験実習型模擬授業、実習病院（NTT 東日本関東病院）見学会の実施、応援企業による医療機器の展示・説明・体験コーナーの設置、在学生による相談会。

表 38 オープンキャンパス来場者数

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
来場者数	1,759名	1,880名	1,641名

○なお、学生募集活動に資することを目的として、毎年度、新入学生に対するアンケート調査を実施しているが、今後も継続して実施し、その結果を学生募集活動に活用することとしている。

表 39 平成 21 年度入学者アンケート実施結果

(対象者数 299 名、回答者数 287 名、回答率 99.7%)

○以下の中で、あなたがご利用されたものを教えてください。(複数回答可)

項 目	20 年度		21 年度	
	順位	回答数	順位	回答数
本学ホームページ	①	236	①	258
本学大学案内	②	214	②	241
本学オープンキャンパス	③	141	③	155
本学入試説明会	④	109	④	72
本学に直接訪問	⑤	47	⑤	36
予備校主催の進学説明会	⑥	29	⑥	14
会場進学ガイダンス	⑦	19	⑧	10
高校主催の進学講演会	⑧	13	⑥	14
その他	⑨	4	⑨	4
不明		7		0
合 計		819		804

○大学や学部学科を選ぶ際、情報収集に当たり参考にした手段を教えてください。(複数回答可)

項 目	20 年度		21 年度	
	順位	回答数	順位	回答数
本学大学案内	①	170	③	154
本学ホームページ	②	166	①	173
受験情報	③	161	②	169
本学オープンキャンパス	④	111	④	127
進学に関するインターネットサイト	⑤	109	⑤	92
塾・予備校	⑥	81	⑥	78
高校の先生	⑦	53	⑦	57
本学主催入試説明会	⑧	43	⑩	22
友人知人	⑨	35	⑪	13
家族(保護者)	⑩	30	⑧	35
本学への直接訪問	⑪	24	⑨	26
先輩	⑫	21	⑪	13
不明		13		0
合 計		1,017		959

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① オープンキャンパスについては、来場者が受験に結びつく傾向にあるので、今後も学生募集に係る広報活動の重要な方策とする。

- ② 入学者のアンケートにおいては、本学ホームページを通して本学の情報を収集している傾向が多く見られることから、本学ホームページにおいては、タイムリーな情報提供及び充実に努めるとともに、ネット検索で本学が登場する回数を増やす方が必要である。

(2) 入学者選抜方法

「現状及び点検・評価」

- 入学者選抜方法については、学生募集要項に本学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）を明確にするとともに、各学科の特性に鑑み、各学科が求める学生像を明らかにした上で、選抜方法、入試方法及び実施時期等入学者選抜の基準を公表している。
- 入学者選抜方法の種類としては、①一般入学試験、②大学入試センター試験利用入学試験、③推薦入学試験、④アドミッション・オフィス（AO）入学試験の各試験を実施している。

（表 40 試験区分と募集定員（平成 21 年度））

① 一般入学試験

- 一般入学試験は、各学科の教育に必要な基礎学力を備えているかどうかを評価し、その能力を備えている者を選抜する試験である。この入試は学力を重視し、優秀な学生を確保する中心の入試として位置づけられ、そのため他の入試に比べ定員を最も多く確保している。
- 一般入学試験は前期・中期と 2 回実施し、一般前期では、本学（五反田・世田谷）のほか地方会場（横浜・大宮・千葉・水戸・静岡）で実施し、一般中期は本学及び横浜・大宮・千葉・水戸の各会場で実施している。なお、平成 19 年度までは新潟会場を設置していた。前期と中期では前期の定員を多くし、この前期試験はスカラシップ（特待生）選抜も兼ねている。
- 試験科目は、3 学科共通で実施し、3 学科で英語を必修としているが、看護学科及び医療栄養学科は国語総合（現代文のみ）、数学Ⅰ・数学 A から 1 科目、生物Ⅰ、化学Ⅰから 1 科目の選択で、3 教科 3 科目試験としている。なお、医療情報学科は受験生が文・理系であることから、国語総合（現代文のみ）、数学Ⅰ・数学 A、生物Ⅰ、化学Ⅰから 2 科目を選択する 3 教科 3 科目試験としている。
- これらの科目は入学後のカリキュラムを実施する上で基礎学力として不可欠であるため、入試科目として重視している。なお、出願時に 2 学科の併願を可能としている。

② 大学入試センター試験利用入学試験

- 大学入試センター試験利用入学試験は、一般入学試験と同様に各学科に必要な基礎学力を備えた者を選抜することを目的とするとともに、本学を地理的な条件で受験できない地域の受験生にも受験の機会を与える入試として位置づけている。
- 試験科目は一般入学試験と同じ科目であるが、英語はリスニングテストを含み 250 点満点を 100 点に換算している。また医療情報学科については、学科の特性から数学Ⅱ・

数学B、情報関連基礎も選択できるようにして、入学後のカリキュラムと連動するように工夫している。

③ 推薦入学試験

推薦入学試験は、高等学校における成績や活動歴などが優れている点を評価して選抜を行っている。推薦入学試験には、公募制推薦入試、指定校推薦入試及び附属・協力校推薦入試がある。なお、女子バスケットボール部を対象としたスポーツ推薦入試を指定校推薦入試の枠内で行っている。

○公募制推薦入試

高等学校長から推薦された現役高校生を対象として平成18年度から実施している。選抜は小論文及び面接により行っており、高等学校の成績（評定平均値）は得点化しているが、小論文を重視している。

○指定校推薦入試

- ・指定校推薦入試は、一般入学試験で入学実績のある高等学校を指定校とし、高等学校長より推薦された者を評価する選抜方式である。本学の場合、出願に当たっては高等学校の成績に条件を与え、小論文と面接試験を実施している。
- ・指定校の指定に当たっては、前年の一般入学試験の入学者数を中心にして、入学試験実施委員会で慎重に審議を行い、学科長会議及び大学経営会議の審議・承認を経て決定する。
- ・なお、女子バスケットボール部を対象としたスポーツ推薦入試については、大会実績などを加味するが高等学校の成績条件などは、他の指定校選抜方法と同一である。

○附属・協力校推薦入試

- ・附属校とは、本学と関係の深い渋谷教育学園・多摩大学附属校など学園グループを形成している6校を指す。また、協力校とは、指定校の中でも毎年入学者が安定して継続している高等学校及び本学開学時に協力的であった高等学校である。
- ・この推薦入試は、今後の高・大連携も視野に入れて模擬授業の受講レポートを小論文の代わりに提出させ、本学の理念・教育目標、各学科が目指す教育目的や授業内容などを十分に理解させることを目的としている。
- ・また、附属・協力校推薦入試で合格した者については、A0入試合格者と同様に入学後の基礎学力維持のために、12月より事前教育学習プログラムを実施し、モチベーションの維持と入学後に必要な基礎学力の維持を図っている。事前教育学習プログラムの主な内容は、通信添削と3ヶ月のスクーリングの実施である。

④ アドミッション・オフィス（A0）入学試験

○本学におけるA0入学試験は、主に意欲的・活動的で個性的な学生を選抜することを目的としている。そのため選抜方法は、基礎学力ではなく、本学及び各学科のアドミッションポリシーに適合しているかどうかを、自己推薦書、面接（共通）及び事前課題論文（各学科別）を踏まえ総合的に判断して選抜を行っている。

○本学のアドミッションポリシーは、医療の現場で必要な生命への畏敬・協調性・積極的な問題解決能力などを備えた学生を求めている。また、各学科においてもアドミッ

ションポリシーにおいて、その求める学生像を明らかにしているが、「チーム医療」の現場に求められる協働に対し、自ら課題を設定し、積極的に問題解決を図り、更に豊かな協調性を持って実践するという意欲と能力を兼ね備えた個性的な人材を選抜することとしている。

- そのため、自己推薦書では修学への意欲とこれまで行ってきた活動を、事前課題論文では求められていることを判断し自ら調べ自ら問題を解決する能力を求めている。また面接では医療に対する考え方や適性、協調性等、人間性を重視して客観的かつ総合的に評価を行って選抜している。事前課題論文のテーマは各学科別の内容であり、入学後のカリキュラムと関連するようなテーマで実施している。
- なお、募集に当たっては学生募集要項に、看護学科及び医療栄養学科については「生物Ⅰ」・「化学Ⅰ」を履修していることが望ましいという条件を提示して、入学後のカリキュラムと関連づけている。また、入学後の基礎学力維持のために、12月から事前教育学習プログラムを実施し、モチベーションの維持と入学後に必要な基礎学力の維持を図っているが、事前教育学習プログラムの主な内容は、通信添削と3ヶ月のスクーリングの実施である。

表 40 試験区分と募集定員（平成 21 年度）

区 分	定 員	試験会場
一般入学試験（前期日程）	看護：40 栄養：40 情報：20	東京（世田谷・五反田）、 横浜、大宮、千葉、 水戸、静岡
一般入学試験（中期日程）	看護：12 栄養：12 情報：12	東京（世田谷・五反田）、 横浜、大宮、千葉、 水戸
センター試験利用入試（前期日程）	看護：15 栄養：15 情報：10	—
センター試験利用入試（後期日程）	看護：3 栄養：3 情報：3	—
推薦（公募制）入学試験	看護：10 栄養：10 情報：10	東京 （五反田）
推薦（附属系列Ⅰ期・指定校） 入学試験	看護：10 栄養：10 情報：10	東京 （五反田）
A0 入学試験	看護：10 栄養：10 情報：15	東京 （五反田）
A0 Ⅱ期入学試験	情報：若干名	東京（五反田）
合 計	看護：100 栄養：100 情報：80	

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 一般入試については、入試日程が適切であるか、学生募集上の影響などを考慮して検討する必要がある。
- ② 大学入試センター試験利用入試においては、21年度入試までは前年度の成績も利用可能であったが、22年度入試からは過去3年間の成績利用が可能になることから大学入試センター試験の成績の複数年度利用について検討を行う必要がある。
- ③ 公募制推薦入試では、調査書・小論文・面接のうち、小論文に配点比重を置いているが、これは調査書が学校間及び学科・コース間で基準が異なっているためである。この調査書の評価については今後も受験生に公平性を維持できるようその扱いについて検討することとする。
- ④ 附属校・協力校及び指定校推薦入試では、受験生はややもすれば早く入学を決めたいという風潮があるので、志願者が本当に第1志望であるかどうかの確認を行って、入学後の進路変更などの問題が起きないように、選抜方法を工夫する必要がある。
- ⑤ A0入試については、学力検査のあり方等、その実施方法を含め、検討を行う必要がある。

(3) 入学者選抜の仕組み

「現状及び点検・評価」

- ① 入学者選抜試験実施体制の適切性
 - 入学者選抜試験実施体制としては、入学試験実施委員長を最高責任者とする全学体制を整備し、各学科入試委員及び事務局職員が各試験会場の責任者となり、教職員の協力を得て適切に試験の実施・運営を行っている。
 - 試験の実施運営に当たっては、大学入試センター試験における実施要領・監督要領などを参考に作成した、全学統一した実施要領（試験監督要領・事務運営要領、緊急事態対応マニュアル含む）に基づいて行っている。
- ② 入学者選抜基準の透明性
 - 入学者選抜方法について、まず入試問題（入学者選抜基準）は大学入試センター試験のような基礎的な問題を出題するよう作成依頼を行い、出題範囲の逸脱や難問・奇問を出題することがないように、作成者と査読校正者を分け二重にチェックを行っている。また、良問を出題すること、問題に誤りがないこと、平均点が概ね60点になることに留意して作問を行っているところであり、全体的には開学以来得点調整などを行うようなこともなく、出題・採点に関する不適正な事態は起きていない。
 - 入試問題については、終了後問題集を作成し、公表している。採点についてはマークシート式を導入し、光学機械読み取りとして、更にもその結果についても事務的に十分チェックを行っている。

○また、面接や小論文の採点についても客観性を保つよう努力し、採点者の平均点が60点になるよう、採点基準・質問項目を入試実施委員会が作成し、またその理解を促進するためにも、面接、小論文の評価を担当する教員に対して事前に説明会を何度も開き、採点者の意識統一を図り、受験生に不利益が生じないように、入学試験実施委員会を中心となって公平性の維持に努めている。

○したがって、本学の入試実施体制については、公正かつ透明性をもって運営されており、また、入試データも大学案内、HPに公表していることから、公平性・透明性を保っていると評価することができる。

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 現在、入試に関する基礎データの作成に努めているが、入学者については広報ツールの活用の妥当性を検証するため、アンケートを採り分析を行っている。一方、入試関連では入学者に対しプレイスメントテストを行い、入試方法別の学力差、また学年比較の推移データを作成している。更に現在入学後の学内成績との関連を調査して基礎データの作成を行うこととしている。
- ② まだデータの蓄積が少ないが、基礎学力の欠如が心配されるA0入学試験の入学者が最終学年時に成績上位者になる例が各学科で見られるので、今後、この入試方法のデータを分析して入試方法の改善等に努める必要がある。
- ③ なお、入学試験の実施に当たっては、入試問題に誤字・脱字などの出題上の誤りが生じないように徹底を図るとともに、今後も良問の作成に努めることが必要である。

(4) 定員管理

「現状及び点検・評価」

- ① 本学の学生収容定員と在籍学生数の比率及び入学定員と入学者の比率では、各年度とも全体で1.2倍を超えていないところから大学全体としての定員管理は適正と考えられる。
- ② なお、平成20年度及び21年度においては、医療情報学科の入学者数が入学定員を下回り、平成21年度の対定員比率が0.75となったことから、今後、医療情報学科の特性、教育内容及び就職状況等を強くアピールするなど広報活動を積極的に推進することとし、対策を講じるとともに、指定校推薦枠の追加を行って入学定員の確保に努めることとしている。

表 41 学生収容定員と在籍学生数の比率（在籍学生数/収容定員）（5月1日現在）

学 科	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
看 護	1.06	1.07	1.11	1.13	1.17
医療栄養	1.14	1.14	1.13	1.11	1.14
医療情報	1.06	1.04	1.00	0.96	0.89
大学全体	1.09	1.08	1.08	1.07	1.08

表 42 入学定員と入学者数の比率（入学者数/入学定員）

学 科	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
看 護	1.07	1.09	1.24	1.17	1.21
医療栄養	1.18	1.2	1.13	1.05	1.18
医療情報	1.16	1.06	1.08	0.85	0.75
大学全体	1.14	1.12	1.15	1.02	1.07

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 看護学科においては看護師学校等養成所指定規則に定める教育課程における実習を円滑に実施する上からも入学定員の比率を 1.1～1.15 程度に維持することが必要と考えられる。
- ② 医療栄養学科においては、管理栄養士の指定科目は原則 40 名以下の人数で行うことが定められており、再履修者（過年度履修学生）が配当年次の学生と一緒に履修する場合が想定されることから、入学定員の比率を 1.1 程度に保つことが必要である。そのためには、受験生の動向を的確に把握した上で、過去のデータ等を参考にして合格者の数を適正なものに決定する必要がある。
- ③ 医療情報学科においては、社会において必要とされる実践的な医療情報コミュニケーターの育成を図ることとしているが、高校生・保護者等への PR を積極的に行い、かつ、第 1 期卒業生の就職状況及び活躍する様子等をあらゆる機会を通じて広報するなど、入学定員の確保に努める必要がある。

(5) 退学者

「現状及び点検・評価」

- ① 学生が退学を希望する場合の現在の手続きは次のとおりである。
 - ・学科のアドバイザー教員が当該学生と面談を行う。
 - ・アドバイザー教員は、退学理由等についての聴取や就学継続の指導等を行った結果を学科長に報告する。

- ・学科長が退学は止むを得ないと判断した場合は、当該学生から「退学願」を提出させる。
- ・学科教授会に諮りその結果を文書で学長に提出する。
- ・学長からの「退学許可」を得て正式に退学が認められる。

- ② 在学学生数に対する退学者率は、平成 17 年度は 0.04%、18 年度は 0.02%、19 年度は 0.02%、20 年度は 0.01%とこれまでのところ比較的低い割合で減少している。
 なお、退学理由については、「進路変更」（他大学受験を含む）が最も多く、「一身上の都合」、「病気」、「除籍」、「経済的理由」となっている。

表 43 退学理由内訳

退学理由	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	計
進路変更	8	10	6	24
一身上の都合	2	5	4	11
病気	1	3	0	4
除籍	0	2	0	2
経済的理由	0	0	1	1
計	11	20	11	42

「今後の改善・改革に向けた方策」

退学に至る学生の場合、授業の長期欠席や保健室を度々利用するなどの兆候が見られることが多いことから、アドバイザー教員を始め、保健室、学生支援センター、教務部等、学生の指導に関わる部署が連携を密にして早期に対応することにより、できる限り就学を継続できるよう支援することが必要である。また、退学理由等の情報を当該学科の教員等で共有することにより、日常の教育活動の中で学生へのより適切な指導を行う必要がある。

<助産学専攻科における学生の受け入れ>

「現状及び点検・評価」

(1) 学生受け入れ方針

- ① 周産期医療に対する高度な専門知識を持ち、医師と連携しながら心身ともにサポートできる助産師の育成を図るため、平成 21 年 4 月に助産学専攻科を設置したものである。
- ② 助産学専攻科は、助産師として本学の教育理念である「思いやり、人の絆、愛を持った医療人に」を基に周産期のみならずライフサイクル全般にある女性、乳幼児、家族そして地域社会を対象に、全ての女性に寄り添い、女性の内なる力を信じ、人間性を重視したケア・支援を行う専門職を育成することとし、特に、問題解決能力、判断力はもとより、実践力を基盤にし、そのスキルをもって母子保健の向上に貢献できる助産師を育成することを目標としており、これに即した選抜を行うこととしている。

(2) 学生受け入れ方策

① 修業年限・募集人員等

- 修業年限 1 年
- 入学定員 15 名（女性）
- 選抜区分 推薦選抜、一般選抜、社会人選抜

② 入学資格

看護師資格を有する女子で、次のいずれかに該当する者とする。

- ・大学を卒業した者
- ・学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- ・外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ・外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ・我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ・専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ・文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(3) 入学者選抜方法

平成 21 年度入試における選抜方法は次のとおりである。

① 出願資格

○推薦選抜

次の条件を満たし、合格した場合必ず入学する者であること。

- ア. 本学が定める入学資格を有すること。
- イ. 出願時において看護師国家試験受験資格が得られる看護系大学等に在籍し、平成 21 年 4 月 1 日の時点において看護師免許取得見込みであること。
- ウ. 学力、人物ともに優れ、学校長の推薦が得られること。

○一般選抜

本学が定める入学資格を有する者であり、平成 21 年 4 月 1 日の時点において看護師免許を有する者又は取得見込みの者であること。

○社会人選抜

次の条件を満たし、合格した場合必ず入学する者であること。

- ア. 本学が定める入学資格を有すること。
- イ. 出願時において医療機関に在籍し、看護師として、母性看護の臨床経験が平成 21 年 3 月 31 日の時点において 5 年以上であること。
- ウ. 勤務成績、人物ともに優れ、施設長等の推薦が得られること。

② 試験科目

入学者の選抜は、本学が実施する試験科目成績及び成績証明書等を総合判断して行う。

区 分	試 験 科 目
推 薦 選 抜	母性・小児看護学
	面 接
一 般 選 抜	母性・小児看護学
	看護学一般
	面 接
社 会 人 選 抜	母性・小児看護学
	小論文
	面 接

注) 推薦選抜、社会人選抜の両方を出願する者は社会人選抜の試験科目を受験する。

③ 平成 21 年度の入学試験実施結果については次のとおりである。

入試実施結果

入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
15 名	34 名	33 名	21 名	16 名

(4) 教育課程

助産師として必要な基本的知識・技術の修得のみならず、科学的思考並びに倫理的判断力及び創造性を培い、自立性のある助産活動への促進を図ることを目指し、次の各領域による教育課程を編成している。

① 助産学基礎領域

女性の性と生殖を軸に、周産期、母子の健康状態の診断、栄養学などトータルでのケア知識を養い、生命倫理に関する健全な判断力を磨く。

② 助産学実践領域

実学演習を中心として、助産業務の管理、助産所の運営の基本を学び、周産期における医療の安全確保や不測の事態に適切に対応できる判断力を身につける。

③ 助産学実習領域

医療現場に赴き、助産活動に必要な技術・態度を学び、自立した助産師としての意識向上を図る。

④ 助産学関連領域

科学的・理論的手法を活用し、基本的な能力の育成と助産業務の遂行に必要となる専門知識を習得することにより、医療安全、母子保健の質の向上に貢献できる能力を養う。

(5) 実習施設

助産学実習に当たっては、次の各病院等の協力を得て実施しており、専任教員・各病院等の臨床指導者により助産師として必要となる専門的な技術の取得を図ることとしている。

NTT 東日本関東病院（品川区）、東京大学医学部附属病院（文京区）、総合母子保健センター愛育病院（港区）、医療法人泰誠会永井クリニック（三郷市）、総合病院厚生中央病院（目黒区）、アクア・バースハウス（世田谷区）、かもめ助産院（横須賀市）、豊倉助産院（横浜市）、山本助産院ハッピーバースハウス（横浜市）、みやした助産院（横浜市）

「今後の改善・改革に向けた方策」

地域社会から求められる質の高い専門性と、真摯に生命と向き合い、慈しむ心を持った助産師の育成を目指し、助産学の発展に寄与するための高い志を持った有為な人材の養成に引き続き努めることとする。